

ひるま矯正歯科に一年間勤務して、予防や定期的なメインテナンスの大切さは理解しているつもりでしたが、今回チームミーティングに参加してあらためてその重要性を認識しました。

実際の症例の発表では、若い頃から長期にわたり定期的にメインテナンスを受けた患者さんが、最小限の修復処置で年を取っても入れ歯にならず、自分の歯でも食事や会話ができていることに驚きました。歯を削り修復を繰り返す治療法だけではこのように自分の歯を残すのは難しいので、ほとんどの人が年を取ると歯に問題を抱えているなかでこういった予防やメインテナンスをベースにした歯科医院が増えれば、一生自分の歯で暮らせる人が増え元氣なお年寄りが増えるのだろくなと思います。

自分は技工士なので虫歯が無

くなると仕事もなくなるのですが、最小限で質の高い修復治療のために良い修復物を作れるようにがんばろうと思います。

ひるま矯正歯科が目指す歯科医療を知り、自分が目指すべき所も考えさせられ、とても有意義な一日間でした。



講演の合間の休憩時間

講演者の中でも印象に残っているのは、中国の天津市にある天津伊勢丹の元社長である稲葉利彦さんのお話です。天津でお務めになつていたことから、講演は「中国と日本の文化や風習の違い」「売上を上げる技術や教育」など、歯科とは関係の無いお話と思つて聞いていたのですが、接客に関することや自分のモチベーションについてなど自分の仕事に関係のある内容でした。また、人を教育するためにはまず自分が相手を理解し、先入観を持たないなど、私だったらこういう時に稲葉さんみたいな考え方は出来ないだろうなと感じながらも、こういう人になれたらいいなと思ひながらお話を聞いていました。

日吉歯科の見学にも行きました。写真では見たことがあったのですが、実際に見ると医院の大きさにビックリしました。中に入って

虫歯で痛いところ、不快なところをさちんと治療することはもちろん大切ですが「異常があるから歯医者」ではなく「メインテナンスで健康な口腔内を守り育てていくために歯医者へ」という意識がとても重要である理由やその根拠を、ふむふむ！と聞いていました。おそらく話を聞いて



2009オーラルフィジシャンチームミーティング会場

て感じた驚きや納得の気持ちは、どちらかというと思者さんと近いのではないかと思います。

今回チームミーティングに参加して改めて、健康な口腔内環境を守り育てるということの大切さを感じ、この医院側の想いや熱意をどう患者さんに伝えていくか、また健康であることがどれだけの価値のあることなのかをどう広めていくかということに、関心を持ちました。

今回学んだこと気づいたことを大切にして、患者さんひとりひとりととつて、より身近な歯科医院であるよう成長していきたいと思ひます。

私が印象に残つたのは、日吉歯科が行なつた、「患者さんが理解しにくいこと」のアンケートです。結果は1位が唾液検査、2位が

みると広い待合室があり歯医者というよりも病院という感じで、器具なども綺麗に片付けてありゴミなどは切落ちてなく、治療に使う道具などは棚にしまつてありました。診療室にはお花が飾つてあり歯医者独特の匂いもなく驚く事ばかりでした。私たちが器具や診療室などは常に綺麗にしているつもりですが、日吉歯科に比べるとまだまだだと思います。これからはより気を配り患者さんに不快感を与えず、いつも綺麗で治療後気持ち良く帰つていただけるようひるま矯正歯科みんなで頑張りたいと思います。



健康ノートでした。

2位の健康ノートは、ひるま矯正歯科では取り入れてないのですが、生活習慣や、その日の治療の状態、出血や歯石などを治療のたびに衛生士かドクターがノートにチェックするというのが、このノートがあれば、自分の状態が良くなっていくのも悪くなつてきた事もわかるので、患者さんにいい心掛けになると思ひました。

1位の唾液検査は、ひるま矯正歯科でも行つていますが、患者さんには必要性が理解されないうです。

この発表を聞いて私が思つた事は、唾液検査は、予防中心にしていく為、またその患者さんのリスクや結果に合った治療をする為に必要な検査なので、患者さんが理解しにくい事を、もし受付で聞かれても応えられるようにしなければということですが、ただ説明できるだけではなく、きちんと患者さんに理解してもらえらる事が大切だと思ひました。